

引率者報告書

団長 登別市観光経済部商工労政グループ 大澤 玲裕

【派遣日程の経過報告】

■ 8月9日（木） Day1

台風13号が関東に接近し、千葉県と茨城県の一部が暴風域に入中、13時30分に市役所に集合し、多くの関係者に見送られ14時00分に登別市役所を出発した。昨年度までは新千歳空港から成田空港を経由してコペンハーゲン空港に向かうため早朝の出発であったが、今年度は香港空港を経由することとなったため、午後の出発となり、生徒たちは良く眠れたようであった。また、結果的に、経由地を変えたことにより、台風の影響を受けずに予定どおり出発することができ、今年度の団員は、「何かを持っている」と感じていた。



新千歳空港に到着後、旅行会社の担当者から必要書類等を受け取り、外貨両替所で生徒たちのお小遣いと団費をデンマーククローネに両替した。市から事前に外貨両替所に連絡していたので、デンマーククローネが不足することなく、生徒たちもスムーズに両替ができた。

その後、チェックイン、保安検査、出国手続きを経て、国際線出発ロビーにて待機するも、出発まで時間があつたため、集合時間を決め、自由行動とした。生徒たちは、お菓子や飲み物などを購入したものの、新千歳空港の国際線ロビーは、お店も多くなく、すぐに集合場所に戻ってきて、出発ゲート付近でくつろいでいた。香港空港行きCX583便は、30分以上搭乗時間が遅れたものの混乱なく搭乗することができた。

飛行機に搭乗後、各自、チケットに書かれている番号の座席へ向かうこととなるが、飛行機の前方から乗り込むため、ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミーの順番となる。当然、私を含め団員全員がエコノミーと思っていたため、何の躊躇も無くエコノミー席まで向かい座席番号を確認する。しかし、チケットに書かれている番号は20番代で既に通り過ぎている。座席番号まで戻るが、そこはビジネスクラスの席である。キャビンアテンダントにつたない英語で座席を確認するが、ここで良いとのこと。そんな訳が無いと思い、再度、違うキャビンアテンダントに確認するが、ここで間違いなしとのこと・・・我々全員の席がビジネスクラスだった。

生徒たち、斎藤先生と私も含め大興奮状態であった。もちろん全員がビジネスクラス初体験のため、勝手が分からず、身の回りの装備等々をいじりまくる。キャビンアテン

ダントから名前と呼ばれ、飛行機が飛び立つ前にウエルカムドリンクサービスもある。機内食では、最初にでてきたホタテとエビの料理を食べ、美味しすぎてレストランで食事をしているかのような感覚になっていた。エコノミーしか知らない私は、食事に満足していると、何故かメイン料理（ホタテとエビの料理）の皿しか下げてくれない。メイン料理と思っていたものが前菜料理で、この後、本当のメイン料理（肉料理など）が出てくる。最後のデザートは、カットフルーツやハーゲンダッツのアイスクリーム、全てが美味しくて大満足であった。生徒たちも機内食に大満足の様子で、食事の後はビデオや音楽を楽しんでいた。私は、眠くもないのに座席をフラットにしてみても、本当に平らになることを確認した。設備が良すぎて、寝ることがもったいないと思った。あっという間に5時間程経過し、香港空港へ到着した。



香港空港は桁違いに大きく、乗換ゲートが遠い場合は、空港内を走行している電車を利用することとなる。幸い、到着ゲートから乗換ゲートまで近かったものの、それでも結構な距離を歩くこととなった。

落ち着いたところで香港空港までのチケットをよくよく見ると、「business」と書いてあることに気づく。やはり「何かを持っている」ようだ。（後ほど判明するが、旅行会社の事情でビジネスクラスになったとのこと）

■ 8月10日（金） Day2

香港空港にてコペンハーゲン空港行きCX227便への搭乗を待つが、深夜ということもあり、生徒たち、特に女子は眠たそうにしている。売店も閉まっているため、出発ゲート付近で待つしかない。優美香が「次もビジネスかなあ？」と言うが、チケットには「Economy」と書いてある。定刻どおりに香港空港を出発した。生徒たちには、ここから約11時間の長時間の飛行となるため、できるだけ機内で寝よう伝えた。

現地時間6時30分にコペンハーゲン空港に到着した。驚いたことに、空港内の案内板に日本語がある。生徒たちとともに入国手続きを受ける。私が男子3名、斎藤先生が女子3名を見ながら入国手続きを受けた。事前研修で入国手続きの際のQ&Aは勉強してきたが、いざ本番を迎えると生徒たちは不安そうな顔をしている。私は男子3名と一緒に入国手続きを受けたが、入国管理官が私に話しかけるため、私ばかりが答えることとなり、結局、男子3名は英語を試す機会を失ってしまった。女子は一人ひとり入国審査を受けたため、それぞれ英語を試せたようだ。

無事、デンマークへの入国を果たし、スーツケースを受け取りに行く。筈のスーツケースがなかなか出てこない。3周程度まわった後、筈のスーツケースを発見するもベルトがない。どこかでベルトが外れてしまったようだ。



今年度は、飛行機の都合上、本日1日がフリーとなるため、コペンハーゲン市内を観光することとしている。空港内でコペンハーゲンカードを購入した。コペンハーゲンカードは、電車やバス、地下鉄、観光施設の入場料が含まれているため、市内を観光するにはお得である。コペンハーゲン空港駅から普通列車でコペンハーゲン中央駅に向かう。生徒たちにはコペンハーゲン中央駅ではスリに気をつけるよう伝えてある。リュックや手荷物は胸に抱え、コペンハーゲン中央駅をでた。

コペンハーゲン中央駅からホテルまでは徒歩での移動である。デンマークの中でも最も都会を歩く。生徒たちは早速写真を撮りまくり、自転車の多さに驚いていた。道路に自転車レーンが整備されている。日本人と思われる人は、我々以外見当たらない。街並みはきれいであるが、よく見ると道端にはタバコの吸い殻が多く捨てられている。

ホテルに到着後、荷物を預け、市内観光へ向かう。天気あまり良くなく風も強い。観光先は、生徒たちの研修テーマに沿うよう、事前に斎藤先生が計画を立てていた。

まずは、コペンハーゲン市庁舎に向かう。市庁舎自体が歴史を感じられ写真撮影スポットとなっている。市庁舎横にはアンデルセンの銅像があり、ここで記念撮影をした。生徒たちも各々写真を撮っていた。

次に、ラウンドタワーに向かう。ここは、ヨーロッパ最古の元天体観測所である。らせん状のスロープを上り屋上の展望台を目指して歩く。途中、様々な展示もあり、観光客を飽きさせないよう工夫されている。屋上からの眺望はすばらしい。デンマークに来ていることを実感できる場所である。

次は、クリスチャンスポー城に行く予定であったが、お腹がすいてきたとのことであったので、ストロイエに向かう。ヨーロッパ屈指のショッピングストリートである。ショップやカフェが建ち並び、賑やかである。生徒たちは、昼食を食べるために店員さんに英語で話していた。こうした英語を話さなければならない状況が、生徒たちの成長につながっていくものと考える。

次に、ニューハウンへ向かう。デンマークといえばここ。色とりどりの建物が並び、建物前にはお洒落なカフェもある。アンデルセンが愛した場所であり、生徒たちも写真を撮っていた。

次に、デザインミュージアムに向かう。デザインの国デンマークの近代的なデザインの変遷がわかる博物館。リュック等の手荷物は預けなければならないが、ロッカーではなく、



檻のようなところにまとめて入れることとなり、少し不安であった。



チェックインできる時間となったため、一旦、ホテルへ向かう。ここまで全て徒歩による移動であり、気づかぬうちにホテルから結構な距離となっていた。コペンハーゲンカードはバスも乗れるため、バスにてホテルまで帰ることとした。斎藤先生がスマホを使いバス停や行き先などを確認していると、優希が色々と教えてくれる。グーグル検索に詳しいらしい。頼もしい限りである。おそらく本事業で路線バス、しかも自分達で調べて乗ることは初めてのことだろう。生徒の研修テーマに「交通機関の違い」もあり、良い経験になったものと思う。

ホテルに到着後、チェックインの手続きをするが、部屋ごとに書類を書かなければならない。斎藤先生の指導の下、各部屋（男子・女子）の代表者が記入する。もちろん、全て英語である。無事、チェックインを終え、ホテルロビーでの集合時間を伝え、各々部屋へ向かう。部屋には大きなデザイン画が貼られており、その他にも照明やイス、全てがお洒落である。ホテルでもデザインの国デンマークを感じることができる。

ホテルロビーに集合し、チボリ公園に向かう。有名な公園（遊園地）であり、園内はかなり広い。コペンハーゲンカードはチボリ公園の入場料も含まれているため、生徒たちは乗り物の乗り放題チケットだけを購入した。（私と斎藤先生は入場のみ・・・）絶叫系のアトラクションも数多く有り、生徒たちはチボリ公園に来られたことを喜んでいる様子であった。集合時間を決め、自由行動とした。平日の夕方にもかかわらず、かなり混んでいた。なんと夜中の12時まで営業している。

混んでいたせいで、あまり多くのアトラクションに乗れなかったようだが、それなりに満足している様子である。ホテルまで戻る間にあるお店で晩ご飯を食べようということになり、生徒たちに「何が食べたい」と聞くと、デンマーク初日にもかかわらず、和食という答えが・・・寿司やラーメンなどを提供するお店に入店した。ラーメンの味付けは日本とは異なっていたようだ。支払いは一人ひとり行い、少しずつ外国になれてきた様子である。

夜の8時を過ぎていたが外は明るく日中のようだ。ホテルまで戻り、明日の朝食の時間を伝え、各々部屋に行った。

■ 8月11日（土） Day3

ホテルのロビーに集合し、生徒たちへ昨夜の状況を聞く。笙は、部屋に入った後、すぐに寝たようだ。皆、飛行機での長旅と市内観光で疲れていたのだろう。ホテルでゆっくり休めたので生徒たちの体調は良い。隣の朝食会場へ向かう。入口で部屋番号や人数を確認される。朝食はパンを中心としたビュッフェスタイルで美味しい。生徒たちも喜んでいる様子である。私と斎藤先生もついつい食べ過ぎてしまった。

各々、チェックアウトの準備をし、ホテルロビーで再度集合する。旅行会社が手配したアシストの方がロビーで待機していた。アシストの方から本日の列車のチケットと16日の列車のチケットをもらい、ホテルをチェックアウトし、徒歩にてコペンハーゲン中央駅に向かう。途中、コペンハーゲン中央駅や市内でのスリが多いこと、また、特に日本人が狙われやすいことを聞く。毎日のように日本人が被害にあっており、デジカメを首からぶら下げている日本人観光客は、スリに後を付けられ、写真撮影のちょっとした隙を狙われるとのこと。昨日、コペンハーゲン中央駅に着いたときに、明らかに目つきや素行がおかしい人がいたことを思い出す。あらためて、生徒たちに注意するよう促した。

コペンハーゲン中央駅からオーデンセ行きの特急列車に乗る。アシストの方とは、ここでお別れとなる。生徒たちを指定席に座らせ、私と斎藤先生が交代で出入口付近に固めて置いてあるスーツケースを見張ることとした。発車後、駅員さんがチケットの確認に来た。スーツケースを座席上か座席の隙間に入れるよう指示され従う。

1時間程度でオーデンセ駅に到着し、アネと合流した。アネは、リングフリー校の教員であり、ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会員でもある。明寿香からアネへお土産を渡し、私からも個人的に預かってきたお土産を渡した。アネは喜んでくれている様子だ。駅の外ではアネの友人がトレーラー付きの車で待機している。我々のスーツケースは、このトレーラーに載せ、後ほど向かうリング駅まで運んでくれた。



アンデルセン作の切絵

アネがアンデルセン博物館をはじめ、関連施設を案内してくれた。アンデルセンは童話だけではなく、切り絵も得意であったようで、博物館には切り絵が多く展示してある。切り絵はどれも変なポーズをしており、私が真似をしたところ、生徒たちに写真を撮られる。この後、関連する施設で変なポーズをした切り絵やグッズを見つける度、生徒たちから「団長やって～」と言われることとなった・・・

昼食は、ベーカリーショップでアネがご馳走してくれた。水は炭酸水だ。デンマークでは炭酸水がポピュラーである。

時折雨が降る中、オーデンセ市内の見学を終え、再び列車にてリング駅へ向かう。リング駅に到着後は、あっという間にホストファミリー宅へ向かうと聞いていたので、列車内で明日の予定の確認を行った。生徒たちはホストファミリーとの対面を前に緊張している様子であった。

リング駅に到着。多くの関係者に出迎えられた。花壇のような少し高いところに、一際、エネルギッシュな女性がデンマークの国旗を振っている。ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会長リズィである。私はリズィに挨拶した後、小笠原市長からの親書を渡した。リズィをはじめ、関係者の熱烈な歓迎を受けた。聞いていたように、生徒たちはあっという間に各々のホスト宅へ向かっていった。私と斎藤先生のホストファミリーはハンスである。ハンスは2年前、斎藤先生が本事業でデンマークを訪れた際のホスト

ファミリーである。斎藤先生とハンスは、久々の再会を喜び合い、ハンスは私も快く受け入れてくれた。

ハンスの自宅に車で向かう。車はフランスのシトロエンである。ハンス曰く、ルノーの前はスズキに乗っていたとのこと。20万キロメートル程度乗ったようで、日本車は丈夫で良く走ると褒めていた。

リングの街並みは自然と住宅が調和しており、とてもきれいである。レンガの外壁とオレンジ色の屋根、地下埋設だと思いが電柱はない。信号もあまり無く、交差点はロータリーが多い。道路にはスピードを出しすぎないように、わざと段差が設けられている。

ハンス宅では、長女イダと長男マーティンが出迎えてくれた。テーブルを囲み5人会話する。と言っても、私は英語が話せないので、斎藤先生が通訳をしながらである。ハンスは話し始めると止まらない性格のようだ。

夕飯は、ハンバーガーや生野菜などでとても美味しい。デンマークでビールと言え「カールスバーグ」である。デンマーク人はビールを冷やす習慣はないと聞いていたが、ハンスは我々のために冷やしてくれている。「おもてなし」を大切にする日本人と似ていると感じた。

■ 8月12日（日） Day4

昨夜は遅くに就寝したが、午前6時前には目覚めていた。リラックスしているつもりではあったが、どこか気が張っているのだと思う。朝ご飯は、ヌードルやパンなど、どれも美味しかった。

9時過ぎにハンス宅を出て、一度、リングフリー校で集合した。生徒たちも各ホストファミリーと一緒に来ていた。生徒たちに体調を尋ねたところ、皆元気であった。ホストファミリーとも馴染んでいる様子である。



全員の集合を確認し、各ホストファミリーの車でイーエスコー城へ向かう。イーエスコー城までの道のりは田舎道だ。30分ほどでイーエスコー城に到着した。

生徒たちは、各ホストファミリーと一緒に行動した。敷地内に入るが、広いことに驚く。お城は遠くに見える。自然豊かな敷地内に本格的なアスレチックが多数ある。私も斎藤先生と綱渡りのようなアスレチックに挑戦する。高さ10メートルくらいあるのだろうか、斎藤先生が少し躊躇している様子であった。高いところがあまり得意ではないようだ。

気がつくと、生徒たちは先に進んでおり、見えなくなっていた。アスレチックのほかにも、巨大な迷路や竹馬のような遊具で遊べるスペース、歴史を感じられる自動車のミュージアムなどがある。

イーエスコー城近くの休憩場所に集合し、生徒たちは各ホストファミリーが作ってく

れたお弁当を食べている。といっても、事前研修で聞いていたとおり、日本のお弁当ではなく、サンドイッチやリンゴまるごと、ニンジンスティックなどである。昼食後、帰りの集合時間を確認し、生徒たちはホストファミリーと過ごす。私と斎藤先生は、イーエスコー城へ向かった。



動かしてはいけない人形

イーエスコー城は、登別マリパークのニクス城とそっくりだ。ニクス城がイーエスコー城を真似ているのだから当たり前であるが、どこか登別にいるような感覚になる。

城内は様々な動物のはく製や、絵画などが多数ある。また、屋根裏の人形を動かすとお城が崩れるといった言い伝えがあり、ミステリアスな一面もある。当然、観光客が触れられないようになっている。

入口付近に集合した後、生徒たちと明日の予定を確認し、各ホスト宅へ戻っていった。

私と斎藤先生はハンス宅へ戻った後、ハンスは、オーデッセのショッピングセンターに連れて行ってくれた。駐車場では日本のようにバックで駐車する人はいない。知っていたが、こんなことでも文化の違いを感じる。偶然、筈とすれ違う。ホストファミリーと一緒に買い物を楽しんでいるようだ。

ハンス宅に戻り夕食を食べた。白身魚のソテーでとても美味しい。出発前は、食事が合わなく痩せるのではないかと考えていたが、今のところデンマークで食べた物、一つを除き美味しく、むしろ、太ってきているように感じる・・・

■ 8月13日（月） Day5

各ホスト宅から徒歩や車でリングフリー校へ向かう。集合後、生徒たちに体調を尋ねたところ、食事でも美味しく体調も良好であるとのこと。私と一緒に食事での心配はいらぬようだ・・・校長先生をはじめ先生方と挨拶を交わす。校長は毎日20キロメートル程度を自転車で通勤しているとのこと、汗だくになっていた。

リングフリー校の全体集会に参加した後、リズィたちの案内でファボー・ミッドフュン市役所へ向かう。私はリズィの車に乗った。リズィはスズキ車に乗っており、日本車は良く走ると褒めていた。ハンスと同じことを言っている。デンマークでは日本車の評価が高いようだ。

本来、午後から市役所訪問を予定していたが、市長の都合により午前中に訪問することとなった。吹き抜けで開放感のある会議室に案内され、生徒たちにはジュースやお菓子がふるまわれた。私から市長に親書とお土産を渡し、市長からファボー・ミッドフュン市の概要説明を受ける。生徒たちからも、研修テーマに沿って質問し、市長自ら丁寧な回答をいただいた。

その後、アネの案内で市内中心部にある図書館に行った。図書館なのに子ども向けの遊び道具が置いてあったり、アートな作品が飾ってあったりと所々でデンマークらしさ

を感じる。生徒たちもリングフリー校や市役所訪問で緊張していたせいか、緊張から開放され楽しそうである。

その後、アネからの提案もあり、市内中心部でお土産などを買う自由時間とした。私と斎藤先生は、変更となった本日の予定を確認するため、アネの案内でカフェに向かう。小さな町ではあるが、街並みがきれいでお洒落である。カフェもお洒落でアート作品が多数展示している。アネがコーヒーとチーズケーキをご馳走してくれた。これまで食べたチーズケーキの中で最も美味しいと思った。斎藤先生もとても美味しいと言っている。ますます、太りそうだ・・



集合場所へ向かうと、大翔が「ラクリツ」を持っている。ラクリツとは一般的に不味いと言われているグミのようなお菓子である。大翔が皆に食べさせようとするが、アネ以外は頑なに断っている。大翔が私にも食べてと言ってきた。実は昨夜、ハンス宅にて飴状のラクリツを食べている。デンマークで食べた物で唯一、苦手な味であった。アネもいる手前、断るのは失礼と思い、平気なふりをしてラクリツを食べた。生徒たちは「よく食べられるな～」と言いたそうな表情であった。気を遣う日本人であることを再確認した出来事であった・・

その後、市内を散策しながら「森の幼稚園」に行き、生徒たちは、ホストファミリーが作ってくれたお弁当を食べ、園児と交流した。日本の幼稚園では考えられないが、折れた木の枝が砂場に置いてあった。危ないのではと聞いてみたところ、今年のクリスマスに使用した木であると言って笑っていた。明確な回答ではなかったが、危険な物を全て除去するのではなく、園内にも危険があることを教えているのかもしれない。そう言えば、ハンスはボーイスカウトの指導者としても活躍している。イダもマーティンもボーイスカウトに入って活動している。リングの町には、年齢別のボーイスカウトチームがあり、地域全体として野外での活動が盛んである。このような地域特性と関連があるのかもしれないと思った。

幼稚園に各ホストファミリーが車で迎えに来た。生徒たちはホスト宅へと帰っていった。予定していたリングフリー校での交流や老人ホームへの訪問がなくなったため、若干早めの帰宅となったが、16時にサッカー場に再度集合し、ホストファミリーと一緒にサッカーをすることとした。

私と斎藤先生は、徒歩にてハンス宅まで帰ることとした。歩きながらリングの町を見渡すと一軒家が多いことに気づく。キャンピングカーやトレーラー、屋外トランポリンなどもある。コペンハーゲンとは異なる優雅でどかな風景が広がっている。

サッカー場に集合し、ホストファミリーの子どもたちと一緒にサッカーをする。私と斎藤先生、ハンスも参加し楽しんだ。サッカーの後は、サッカーボールでバスケットボールも楽しんだ。大翔が生き生きとしている。

スポーツを通じてホストファミリーとの交流もさらに深まり、結果として予定が変更となり良かった。

■ 8月14日（火） Day6



リングフリー校で集合後、生徒たちの体調を確認する。ホストファミリーとも慣れてきた感じで体調も良好のようである。

7学年の生徒たちと一緒に貸切バスに乗り込み、レゴランドへ向かう。渋滞もなく順調で、ひたすら、平坦な道路を走行している。以前、私がホストファミリーとしてデンマーク人を受け入れた際、デンマークには山がないと聞いていたことを思い出す。通勤や通学に自転車を利用する人が多いのは、このような特徴もあるのかもしれない。

レゴランドに到着し、入口前で集合写真を撮る。平日にもかかわらず、かなり混んでいる。生徒たちはホストファミリーと一緒に行動する。英語でのコミュニケーションも何とかとれているようだ。私たちは引率の先生と電話番号を交換し、何かあった場合はお互いに連絡することとした。

斎藤先生が2年前にレゴランドに行った際は、アトラクションに乗らなかったとのこと。乗らなかったことをハンスやイダに不思議がられたようだ。2年前は、当時の団長とともに、レゴランド内のお店でコーヒーを飲んだりしていたそうだ。

レゴランド内は広く、子供から大人まで楽しめるようになっている。レゴランド内の中央では、世界の街並みをレゴを使って表現しており圧巻である。

私と斎藤先生は、アトラクションに乗ることとした。お化け屋敷で最後にフリーフォールに乗るアトラクションである。途中で優美香と明寿香、そのホストファミリーに会う。こちらに気づいていないようだ。偶然、フリーフォールが一緒であった。フリーフォールに乗っている間、優美香は終始笑顔であった。優美香はいつも笑顔で団のムードメーカーである。明寿香は目を閉じて怖がっていたようであった。そういう私も乗り物はあまり得意ではない・正直、恐ろしかった。チボリ公園もそうであるが、デンマークのアトラクションは絶叫系が多いように感じる。

喉が渴いたので自動販売機でコーラを買った。自動販売機は現金も使えるが、クレジットカードも使えるようになっている。通路上に出店しているお店でもクレジットカードが使える、国全体としてキャッシュレスが進んでいるようだ。

生徒たちは多くのアトラクションに乗り、お土産も買い満足している様子だ。帰りのバスに乗り、リングに向かう。行きとは異なり渋滞している。高速道路で事故があったようだ。予定より1時間程度遅れてリングに到着した。明日は練習してきたプレゼンと特技の披露である。到着後、明日の予定を確認し、各ホスト宅へと帰っていった。

■ 8月15日（水） Day7

リングフリー校で集合後、生徒たちの体調を確認する。ホスト宅でのご飯が美味しいとのことで、絶好調のようである。

朝の集会に参加し、全校生徒と先生にプレゼンを披露した。パワーポイントも問題なく生徒たちの英語もスムーズだ。その後、歌2曲を披露した。CDプレーヤーがなく、パソコンにアンプ・スピーカーを接続して音楽を再生した。

予定が変更となり、午前中にノーアエア校へ訪問することとなった。7学年生徒の案内で徒歩で移動した。ノーアエア校では、生徒たちはインターナショナルクラスの生徒たちとグループ毎に校内を見学した。私と斎藤先生は、ノーアエア校の教員の案内で校内を見学、途中、音楽の授業を見学した際、突然の見学にもかかわらず、小学3年生の生徒による楽器を使った生演奏を披露していただいた。とても上手であった。

12時にリングフリー校に戻り、生徒たちはホストファミリーと一緒に昼食を食べ、午後からの選択授業に生徒たちも参加することとなった。春花と明寿香は体操、優美香は音楽、優希は料理、大翔と笙はスポーツだ。私と斎藤先生は順番に各授業の教室に向かい見学、どれも楽しそうである。



授業終了後、各ホスト宅へ帰り、18時に再度、リングフリー校に集合し「お別れパーティー」である。パーティーでは、各ホストファミリーが作った料理を皆で食べることとなる。私と斎藤先生は、パーティーで料理を振る舞うため、昨日、買い物をしてきた。日本的でありすぎる料理と考え「お好み焼き」を作ることとした。イダにも手伝ってもらい、お好み焼きを作る。ブルドックソースやオタフクソースが売っていなかったため、テリヤキソースで代用する。少し違う味がするものの許容範囲である。

ハンス、イダ、マーティンとともにリングフリー校へ向かう。既に多くの人が集まっている。大きなテーブルの上に料理を並べ、パーティーが始まる。我々が作った「お好み焼き」の売れ行きが心配だ。特に斎藤先生は2年前、「肉じゃが」を作ったが、大量に余ったという経験があり、心配している。結果は完食、評判も良かった。

パーティーが終盤にさしかかったところで、特技披露のリハーサルのため生徒たちと音楽室へ向かう。特に春花と明寿香は緊張している様子である。私は少しでも緊張を和らげようと、へたくそなドラムを叩くが、生徒たちから「団長うるさい」と注意される・・・

パーティー会場へ戻るとアネがこの後の説明をしていた。パーティー会場を皆で片付け、音楽室へ向かう。いよいよ特技の披露だ。

明寿香の英語での司会から始まり、春花のフルート演奏である。すばらしい音色で会場全体が静まりかえる。演奏後は大きな拍手を送られた。皆、聞き入っていたようだ。

次は、明寿香のピアノ演奏である。斎藤先生から明寿香の腕前は相当なもの聞いて

いた。大舞台で演奏慣れしているのであろう、表情まで本格的だ。後でハンスが言っていたが、リングエの町で明寿香のようなピアノ演奏をできる人はいないとのことである。それだけ上手であった。

次は、男子3人によるマジックショーである。斎藤先生がマジックでお馴染みの曲「オリーブの首飾り」を流す。これまでとは雰囲気が一気に変わる。大翔、笙、優希それぞれがマジックを披露し、笑いと驚き、最後は拍手喝采であった。

全体を通して予想以上の盛り上がりで特技披露が終了した。その後、全員で「鬼踊り」を踊る。私のかけ声とともに、全員が輪になって踊り出した。少し照れくさかったが、皆、楽しそうで良かった。

生徒たちとホストファミリーの仲が日に日に良くなっており、私としては、明日の朝のリングエ駅でのお別れが少し心配であった。(号泣するのではないかと・・・)

■ 8月16日(木) Day8



各ホスト宅から車でリングエ駅に集合する。いつものように体調を確認するが、体調は良好であるものの、どことなく寂しそうだ。皆で駅のホームに向かう。デンマークの列車は改札がなく、駅員にチケット提示を求められたときに見せるシステムである。このため、チケットを持っていない人もホームに入れる。ホームでは、ホストファミリー毎に最後のお別れをしている。一部、泣いている生徒もいる。私も斎藤先生とともにハンス一家とお別れの挨拶を交わす。列車がリングエ駅に到着し、生徒たちとともに乗り込む。ホストファミリーは我々が見えなくなるまで笑顔で手を振ってくれていた。

列車はすぐにオーデンセ駅に到着する。乗換列車までの時間が少ないため、生徒たちには急ぐよう伝えてある。乗換列車はコペンハーゲン中央駅行きの特急列車である。斎藤先生が駅員に列車を確認し乗り込む。指定席であるため、座席に向かうも既に誰かが座っていた。斎藤先生がチケットを見せ話すも、相手もチケットを持っている。再度、駅員に確認したところ、我々の乗る予定の列車は既に発車しており、違う列車に乗ってしまった。だが、この列車もコペンハーゲン中央駅まで行くとのこと。駅員から、空いている席に座って良いと言われたので、バラバラではあるが生徒たちを座らせ、私と斎藤先生は出入口付近でスーツケースを見張ることとした。これまで、アクシデントやハプニングがなく順調に進んでいたが・・・

1時間30分ほどでコペンハーゲン中央駅に到着した。予定より若干到着が遅れたが、ホテルで待ち合わせしているヤエスには遅れる旨連絡をしていた。ヤエスは、本日の行程をサポートしてくれるデンマーク人で、ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会員から紹介いただいた方である。コペンハーゲン中央駅到着後、生徒たちにはスリに気を

つけるよう伝え、徒歩にてホテルに向かう。

ホテルロビーにてヤエスと合流した。笑顔の素敵な青年である。チェックインの時間前ではあったが、部屋の準備ができていたようで、チェックインできることとなった。部屋にスーツケースを置き、ホテルロビーで集合したが、男子、女子ともに部屋にベッドが2つしかないとのこと。ハプニング2連続である。

斎藤先生がホテルと交渉するも、ベッドを増やすには追加料金が必要と言われた。早速、ヤエスが活躍することとなる。ヤエスが斎藤先生に代わってホテル側と交渉してくれ、追加料金なしでベッドを増やしてもらえらることとなった。斎藤先生曰く、ヤエスが来たたんホテル側の対応が良くなったとのこと。

この後は、デンマークナショナルチームが練習するスポーツ施設の見学である。駐日デンマーク大使であるフレディ・スヴェイネ大使の協力により実現したものである。ホテル近くのケバフ料理のお店で昼食を食べ、ホテル前にて予約してあるタクシーを待つ。しかし、待ってもタクシーが来ない。まさかのハプニング3連続である。

ヤエスが連絡してくれるとのことで、私はタクシー会社の連絡先が記載された予約票を探していた。その間に、ヤエスが目の前に止まっていたバスの運転手と何かを話している。ヤエスが笑いながら戻ってきて「これが予約していたタクシーだ」と言っている。デンマークでは、大型バスのことをタクシーと言うらしい。3回目のハプニングは大爆笑であった。ちなみに、このタクシーは我々がホテルに到着した時点から駐車してあった。60人は乗れると思われるバスに9人で乗り込む。車で僅か30分程度しかかからないスポーツ施設まで、大型バスで、しかも9人で乗り込んだことで、ホテルの従業員も笑っていた。



スポーツ施設に到着後、担当者が施設内を案内してくれた。トレーニングルームではナショナルチームが練習に励んでいた。サッカー場も案内してくれたが、残念ながら先のワールドカップでも活躍したエリクセンはいなかった。

ホテルに到着後、生徒たちには、一旦部屋で休憩してもらい、明日の列車のチケットを購入するため、私と斎藤先生、ヤエスの3人でコペンハーゲン中央駅に向かった。途中、ヤエスがデンマーク人はタバコを道端に捨てる習慣があると言っていた。デンマーク初日に気づいたことの原因がわかった。

ヤエス協力のもと、発券機にてコペンハーゲン中央駅からコペンハーゲン空港駅までのチケットを購入する。日本とは違い、列車に乗る時間帯も入力することとなる。チケット購入方法は次年度以降も参考となるようビデオ撮影した。ヤエスにお礼を言い別れた。

本日の予定は全て終えている。ホテルに戻り、生徒たちに何がしたいか尋ねたところ、男子は、再びチボリ公園に行きたいと言うので、私が同行することとした。女子は、少し疲れているようで、とりあえずホテルで休むとのことであった。念のため、斎藤先生

が使っているポケットWiFiを春花に渡し、何かあった際は私に連絡するよう伝えた。春花にポケットWiFiを渡したのは、最年長かつ落ち着いていて頼りになるからである。斎藤先生には、今後の授業において何かの参考となるよう、市内を自由に見学してもらうこととした。



斎藤先生がいない中、デンマークで行動するのは初めてとなる。早速、つたない英語でチボリ公園のチケットを購入する。チケットの種類があるため難しいが、何とか購入できた。男子には集合時間を伝え自由行動とした。男子は乗り物やゲームを楽しんだようであるが、どことなく寂しそうであった。

チボリ公園を出て斎藤先生とも合流した。夕飯はコペンハーゲン中央駅内のコンビニで買い、ホテルで食べることにした。女子からは連絡があり、既に夕食を買ってホテルで休んでいるとのことであった。

帰り道に大翔と笙が話していた。「ホテルに泊まるんだったら、もう一泊ホスト宅に泊まりたかったな〜」生徒たちにとってホストファミリーと過ごす時間が本当に楽しかったのであろう。団長として、とても嬉しい一言であった。

■ 8月17日（金） Day9

ホテルのロビーに集合する。生徒たちは最後まで体調は良好であった。美味しい朝食を食べ、各々チェックアウトの準備をする。ホテルをチェックアウトし、徒歩にてコペンハーゲン中央駅へ向かい、昨日、購入したチケットでコペンハーゲン空港駅行きの列車に乗る。

コペンハーゲン空港に到着後、チェックインをしようと案内板を見るも、チェックインカウンターの番号表示がない。若干、早すぎたようだ。しばらくすると、案内板に番号が表示されたため、チェックインカウンターへ向かう。生徒たちは、チェックインにドキドキしているようだ。英語を使うドキドキではなく、座席がビジネスかどうかだ。結果はエコノミー、当然である。

チェックインを済ませた後、空港内のお店でお土産を購入する時間を取った。集合後、出国手続きを行い、出発ゲートにて待機、CX246便にて香港空港へ向かった。

■ 8月18日（土） Day10

約11時間の飛行で早朝に香港空港に到着した。ハブ空港だからであろう、早朝にもかかわらず人が多い。乗換時間が少ないため、生徒たちには急ぐよう伝えてある。行きは飛行機も香港空港での乗り換えであったため、迷うことなくスムーズに行動できている。ただ、今回は出発ゲートまで遠かったため、空港内の電車に乗ることになった。無事、CX582便で新千歳空港に向かった。もちろんエコノミーである。

約5時間の飛行で14時に新千歳空港に到着した。到着後、入国手続きをする。私が先頭で次に生徒たち、最後に斎藤先生といった順番で手続きを行う。私は、入国手続きを終え、8名全員が無事に帰国できたことに安堵していた。が、まだ終わってはいなかった・・・

生徒たちが次々に入国手続きを終え出てくる。しかし、優希と斎藤先生が出てこない。こちらは、既に入国しているため、入国前の様子がうかがえない。しばらくすると、斎藤先生から優希のパスポートと財布がないため入国できないとの連絡が入る。これから、キャセイパシフィック航空の職員が飛行機内を探してくれるとのことで、入国組は、しばらく待機することとした。香港空港の出発ゲートでパスポートを見せているので、パスポートをどこかに落としてしまったのであれば、飛行機内もしくは、飛行機を降りてから入国手続きまでのわずかな間しか考えられない。私は、すぐに、新千歳空港で待っている市担当職員に事情を伝え、待機してもらうこととした。

しばらくすると、斎藤先生から飛行機内でパスポートと財布が見つかったとの連絡が入る。その後、二人は苦笑いしながら無事入国した。

結果的には大きな事故や怪我もなく終えることができた。昨年度、本事業に参加した団員が、デンマークで降りる駅を間違ってしまったことを楽しそうに話していたことを思い出す。我々もハプニングやこのような出来事が後々良い思い出となるのだと思う。



空港内で待機している市担当職員と合流した後、デンマーククローネを円に両替する。バスに乗り込み登別に向かう。市役所では保護者や学校関係者、市職員に出迎えていただいた。久々に会う保護者と照れくさそうに話している生徒たちの姿が印象的であった。

■派遣交流事業を終えて

団長としての役割や責任の重さに加え、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるデンマーク王国のホストタウンとして、登別市をPRするとともに、現地の方々と交流を深めるといった自身としての任務もあったものの、多くの方のサポートを受け、何とか無事終えることができた。特に、引率教員として私や生徒たちをサポートしてくれた斎藤先生の力は大変大きく、あらためて、感謝申し上げたい。持ち前の英語力で積極的に通訳していただく姿は頼もしい限りであり、その姿は、生徒たちにも良い影響を与えているものと思う。

生徒たちは、今回の派遣交流事業に当たり、楽しみの反面、不安も大きかったものと思うが、派遣交流事業を終え、「もっと英語を話せるようになりたい」「将来、ホストファミリーと再会したい」などと話しており、短期間にもかかわらず成長した様子が見受けられる。言葉が通じなくても、ある程度のコミュニケーションは図れるが、共通の言

語を使ってコミュニケーションを図る方が、仲良くなれる（お互いを理解できる）近道だと考える。

グローバル化が進む国際社会において、未来を担う生徒たちには、今回の派遣交流事業を契機として、さらなる国際理解や国際交流を図るべく、語学等の勉強を頑張ってもらいたいと願う。私自身もまずは、2020年にデンマークの方々が登別市を訪れていただいた際に、「おもてなし」の気持ちがより伝わるよう英語を勉強していきたいと思う。

最後に、あらためて、「登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業」の有効性を感じたところであり、生徒たちの成長の一過程に関われたことは大変嬉しいことであった。派遣交流事業に関わる全ての方に感謝申し上げ、経過報告のまとめとしたい。

Mange Tak !

異文化を体験するということ

登別市立西陵中学校 斎藤 智弥

「僕たちは、都市ビルの中にいるからなかなか気がつかないけど、由紀夫君は若い頃に世界のあちこちへ行っていたから、日本の中にいたら気がつかないことがいっぱい見えているんだろうね。なんだか羨ましいような気がするな。」

これは椎名誠さんという作家の『アイスプラネット』という物語の一節である。中学校2年生の教科書にも掲載されている物語なので、たくさんの中学生がこの物語を知っていると思う。

東京とはまた違った大都市、コペンハーゲンの美しい街並み。歴史が息づくアンデルセンの物語、見渡すかぎり山々のない平坦な景色が広がり、そこで穏やかで温かな暮らしを営むリングゲの人々。今回のデンマーク派遣を通して、団員たちは何を感じただろうか。

私自身海外の国を訪れた際にいつも感じることは、憧れの地に足を踏み入れることができた高揚感と、いくらその憧れに近づこうと真似をしても、どこまでも自分は日本人なのだという少し寂しさにも似たような感情である。デンマークは、国際連合が2012年から発表している世界幸福度報告(World Happiness Report)では3度1位になったことがある。また、「hygge (ヒュッゲ)」と呼ばれる、くつろげる心地よい時間、またはそのような時間を作り出すことによって自然と生まれる幸福感や充実感を表す言葉がある。本当に、素晴らしい国である。団員たちはこのようなデンマークの素晴らしさを肌で感じ、海外の国々への憧れをさらに強くしたのではないだろうか。それと同時に、自分たちが生まれ育ってきた日本という国を改めて見つめ直す機会にもなったと思う。もしかすると、「日本もデンマークのように～をしたらいいのに」や、「デンマークに住みたい!」と感じた団員もいるかもしれない。海外の文化に触れたことで、世界を見る視点が増えたことであろう。ぜひ団員たちにはこの経験を、これからの人生をより豊かなものとするための糧としてほしいと思う。世界にはまだまだ多くの国があり、たくさんの人々がいる。それらにもっと興味を持って、たくさんの経験を積んで、世界を見る視点をどんどん増やしてほしいと思う。異文化を体験するということは、自らが現在持っている幸福感や倫理観等の様々な感情を一度整理し直し、新たな何かを加えてアップデートすることなのだと思う。中学生という自分自身を形成する過程として非常に重要な時期に、今回のような体験をした皆さんと、またいつか会えることを心から楽しみにしている。

最後に、このような貴重な体験を私に二度もさせてくださった小笠原春一市長、武田博教育長を始め、事前・事後研修において多大なご尽力をしてくださ

った企画調整グループの方々，そして，私を含め団員に家族のように温かく接して下さった大澤団長に深く感謝を申し上げたい。縁あって一緒に貴重な体験を共有できた団員たちに，もう一つ冒頭の物語からの一節を送り，結びとしたい。皆さんの人生が，リングの街のように愛情溢れるものになることを願って。

－「世界は，楽しいこと，悲しいこと，美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」－